

第2回鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会 議事要旨

■開催日時、場所

開催日時：2024年3月5日（火）14:00～15:40

開催場所：京都経済センター 6-C会議室

■議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 議事
 - ①鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークの取組状況について
 - ②鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク全体構想（案）について
 - ③今後の進め方について
5. 閉会

■出席者（敬称略）

（委員）

- 鎌田 磨人（徳島大学 教授）◆会長
坂本 昇（伊丹昆虫館 館長）※Web参加
中村 圭吾（公益財団法人リバーフロント研究所 主席研究員）
丹羽 英之（京都先端科学大学 教授）
深町 加津枝（京都大学 准教授）◆副会長 ※Web参加
八木 剛（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）※Web参加
山根 隆志（※代理：農林水産省近畿農政局 農村振興部 農村環境課 環境保全官）
※Web参加
岩崎 靖彦（※代理：国土交通省 近畿運輸局 観光部次長）
田中 英二（環境省 自然環境局 京都御苑管理事務所長）
谷川 知実（国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所長）
平野 雅章（一般社団法人自然環境文化推進機構 理事 兼 事務局長）
秦 英正（株式会社京都銀行 公務・地域連携部 部長）
村瀬 修一（京都信用金庫 経営企画部 部長）
関本 陽一（京都中央信用金庫 執行役員 兼 地域創生部 部長）

（事務局）

国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
公益財団法人日本生態系協会

■配布資料

議事次第

出席者名簿

配席表

鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会 規約

資料1：鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークの取組状況

資料2：鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク全体構想（案）

資料3：今後の進め方

参考資料：第1回鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク協議会 議事要旨

【議事内容】

■淀川河川事務所長 挨拶

- ・桂川は洪水が多い河川であるが、一方で魚類や植物など、豊かな生態系も育んでいる。桂川流域での生態系ネットワーク形成の取組が成功することにより、桂川流域の自然環境のポテンシャルが向上し、地域の活性化の一助になることを期待している。

■議事①：鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワークの取組状況について

- ・事務局より資料1について説明。

■議事②：鳴く虫がつなぐ桂川流域生態系ネットワーク全体構想（案）について

- ・事務局より資料2について説明。

委 員 環境省では、「自然共生サイト」を認定する取組を進めており、今後、桂川流域生態系ネットワーク形成に関して、民間が取り組む場所が「自然共生サイト」になる可能性もでてくると考えている。

委 員 文化の継承ができる仕組みとして、小さい子どもたちも安心して遊べるような空間づくりにつながると考えている。また、多様な主体には、保育所や幼稚園を加えた方が良いと考えている。

委 員 「自然が身近な愛着のもてるまち」のシンボルとして「鳴く虫」に着目したことを明記すべきと考えている。

委 員 生息環境づくりに取り組む側へのアピールとして、狭い空間で取り組むことが可能であることを加えても良いと考えている。

委 員 国民公園である京都御苑は厳密に言うと「法令に基づく」という表現が必ずしも適正と言えないため、「法令等に基づき確保されている」と修正した方がよいと考えている。

会 長 14頁の目標の記述で「ネイチャーポジティブの実現の達成にも貢献するものと期待される」とあるが、必ず貢献すると考える。そのため「ものと期待される」は不要である。また、「実施後の評価を見越して」は「実現可能性を見越して」とした方がわかりやすいと考えている。

委 員 試行期の取組は全国の参考にもなると考えている。14頁のフェーズ3の2027年度以降は「淀川河川事務所管内の他地域」に限定せず、単に「他地域へ展開する」とした方がよいと考えている。

会 長 全体構想（案）は、各委員からご意見をいただいたものに対して事務局で修正した上で、会長が確認する形でご一任いただきたいと考えている。

（異議なし）

■議事③今後の進め方について

・事務局より資料3について説明。

会 長 両ワーキングの取組は、密接に結び付きながら進めていくことになると考えている。また協議会として、地域の盛り上がりに対する支援も重要と考えている。生息環境づくりワーキングの進め方で事務局の意見はあるか。

事務局 現在、生息環境づくりワーキングには施設の管理者にも参画いただいている。今後さらに、教育関係の部署などにも情報提供したいと考えている。また、協議会委員を通じてなどにより民間の方へも情報提供を考えている。

委 員 京都府と京都市の環境部局が共同で設置した、きょうと生物多様性センターとの連携・協力も考えられる。また、ボランティア活動団体も情報提供先として考えられる。

事務局 きょうと生物多様性センターとは、情報交換を始めており、連携を図っていききたいと考えている。

会 長 これまでの経験上、やみくもに声をかけるよりも、順次、ステークホルダーとして重要な人に声をかけながら広げていくのがよいと考えている。

委 員 取組に協力してくれた事業者に認証を与え、低金利で融資するということもあり得るのではないか。流域全体の草地の質や多様性が改善される仕組みがうまくつくれるとよいと考えている。

委 員 今後、民間事業者に対して発信ができればよいと考えている。最終フェーズ

を迎えていくと、協議会の関与というよりも、地元が自走していく形が望ましく、事業者の関わり方をいろいろ考えていきたい。

委員 取組に賛同された事業者に対して、何らかのメリットを付けて払っていくことは重要と考えている。

委員 平安時代から虫の音を楽しむ文化があったことは、一般的に知らない方も多い。ストーリー性を持たせ、多くの人々の気づきへとつなげ、京都のブランドが向上するなどの仕掛けも大事であると考えている。

事務局 事業者の所有地でも草地の管理の工夫で、鳴く虫がくらせる環境をつくることができると考えている。また、その場所から聞こえる虫の音が、従業員の癒しや楽しみにつながると考えている。興味・関心を持つ事業者を、ぜひ、ご紹介いただきたいと考えている。

会長 企業の敷地の小さなスペースでもでき、参画しやすいと考えている。TNFDなりESG投資などの仕組みの中に取り込めるような形をつくって、参入を促す仕掛けがあればよいと考えている。

会長 地域での取組にかかる費用の補助や支援の仕組みも、協議会として提案できればよいと考えている。

委員 地元の金融機関としても、行政と連携して、いろいろな地域づくりの取組を進めている。お手伝いや支援の仕方はいろいろ考えていきたい。

委員 認証制度を金利などに反映することは一つの方法であると考えている。ソーシャル企業認証制度などの形で、企業にとってステータスとなることを感じてもらえるような仕組みづくりができればよいと考えている。

委員 クラウドファンディングを活用する方法も考えられる。その際の特典は、ガイドツアーへの参加や、虫に関する体験をインセンティブに付けるのもよいと考えている。

委員 多くの人が鳴く虫に気づき、鳴く虫の面白さを認知し、活動として盛り上がっていくような仕掛けが必要と考えている。AIやアプリなどのツールで虫の音を認識できるようにしたり、どこに鳴く虫がいたかをWEB上で集約するなどの仕組みがあれば、楽しいと考えている。

委員 取組に興味を持ってもらうため、まず知ってもらうことが大事であると考えている。解説板の設置もよいが、対象は限定されると考えられる。スマート

フォンにより鳴く虫がわかるような仕組みは、ガイドツアーなどでも活用でき、有効であると考えている。

委 員 生物情報アプリの開発・運営を行っているスタートアップ企業を承知しているので、紹介は可能と考えている。

会 長 地域での取組には、地域の方々の考えや想いを拾い上げ、協議会としてどう支援ができるかを具体化するためのプラットフォームが必要と考えている。

事務局 両ワーキングの進捗、各委員の方から個別でいただいた意見等を、協議会委員の方へもメール等で情報共有していきたいと考えている。

会 長 委員の皆さんからの助言やアイデアを活かし、協議会ができる支援の仕組みづくりを進めていけたらよいと考えている。

以上